



2021年10月21日

【ミス・ワールド・ジャパン 2021 日本大会】

会場：ヒューリックホール東京（千代田区有楽町）



ミス・ワールドは、世界3大ミスコンテストの中でも最も歴史が長く、1951年にイギリス・ロンドンで第一回大会が行われて以来、64年にわたって毎年開催され、出場国最多133ヶ国のミスコンテストです。日本代表を選ぶ日本大会で、2017年より新たに作られた【日本伝統文化賞】のプレゼンターを、PIARAS 理事長 木南有美子が務めました。

2021年の日本伝統文化賞は、紫藤さらさん、吉田涼香さん、河内愛稀さん、小川美優さんの4名。おめでとうございます☆



一般社団法人全日本ヨガ連盟【ヨガの聖地®】の認定証を地元の手漉き和紙で制作

2021年6月に「ヨガの聖地®」となりました「東京スカイツリー®」（東京都墨田区押上）

東京戸倉和紙を使用した金泊型押し印刷は、「手漉き和紙親善企業」の株式会社トキワ 若林陽介様のご協力を頂いております。



ご挨拶

2022年4月5日、PIARASは10周年を迎えることが出来ました。2012年、設立して最初の活動は、音楽家ウスタミホさんがアメリカから招聘したゴスペルクワイヤーの東日本大地震チャリティーコンサート会場で、PIARASベアの前身となった手漉き和紙のベアチャームを販売し、売り上げの一部を石巻市西光寺さんに納めるものでした。

岐阜県、高知県、奈良県、京都府、島根県から始まり、10年間で日本全国30ヶ所ほどの紙漉きさんを訪問。和紙を使った造形作家、和紙以外の日本伝統工芸の職人さん、教育、福祉、まちおこし、海外への紹介等、手漉き和紙を通して様々なジャンルの方達との出会いがありました。

手漉き和紙の普及とは一すなわち、人と人、人と土地、人とモノを繋ぐ活動であり、生み出し、使われ、残されてきた意味を探求し伝える事だと考えています。11年目のスタートに立ち、継承の意味を深く理解し、今生きる社会の中で文化を繋ぐ活動を続けていきたいと思ひます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

PIARAS 理事長 木南有美子
特定非営利活動法人PIARAS -手漉き和紙を普及する会-

piaras.org

info@piaras.org



@npopiaras

@PIARAS



特定非営利活動法人

PIARAS

- 手漉き和紙を普及する会 -

今年で設立10周年！



楮栽培支援活動「三浦手漉き和紙を考える会」

2022年3月7日

神奈川県三浦市初声町

PIARASが楮栽培支援活動の一環で、コーディネーターとして参画。

「手漉き和紙が地域の繋がりを作る」そんな社会貢献が出来る事を、三浦市の皆さんが行動で証明して下さいます。

会長の角田義行さん、副会長の小杉智さんが中心となった【三浦手漉き和紙を考える会】は2019年2月に埼玉県小川和紙の久保孝正さんから、余った楮の苗を頂いたところから始まりました。

2022年3月7日、のべ17名の三浦市民の皆様と一緒にいった、楮刈り、楮蒸し、皮剥ぎ、黒皮取りの作業は、コロナ自粛から離れた久しぶりの野外活動。地元の区長さんも急遽ご参加下さり地元愛に溢れたメンバーが勢揃い。どうですか、この爽やかな笑顔。楮の苗は三浦の土に定着して想像以上に伸びて育った半面、自由奔放に枝が暴れて作業に手こずったので「来年度は、芽かきを行い、皮剥ぎが楽に行えるようにしよう！」と角田会長。次は原料処理第二段階を経て念願の三浦手漉き和紙を作ります。

【三浦手漉き和紙を考える会】へのご協力
有限会社 久保製紙様 手漉き和紙制作指導
株式会社 モーリ様 漉き簀のご提供



神奈川新聞朝刊14面
「みんな三浦びと」
コーナーに三浦和紙作りの記事が掲載されました。
掲載日：
2021年11月30日



「タウンニュース三浦版」に三浦和紙の活動が掲載されました。
掲載日：
2022年3月18日号



ワークショップ

2021年9月4日、5日
杜のまちや（東京都板橋区南常盤台）

手漉き和紙で作ろう★
わくわくワークショップ！
◆ 薔薇のコサージュ
◆ PIARASベア



いたばし総合ボランティアセンター様の
団体オリジナルプログラム
「夏季ボランティア活動体験事業
（いたばし夏ボラ）」に参加、
特に今回は親子参加が多く、お父様、
お母様もお子様と一緒に楽しまれました。

ワークショップ講師 オニール陽子からのメッセージ
この度はいたばし総合ボランティアセンター様ご支援のもと、多くの方々に全国の手漉き和紙を使ってオリジナルベアやバラのコサージュ作りを楽しんで頂く機会に恵まれ、愛と温もりにあふれた幸せ時間を過ごすことができたことに心より感謝申し上げます。



学習会

第9回 手漉き和紙の里を訪ねる旅—鹿児島県蒲生和紙編
2021年9月24日～26日
蒲生和紙工房（鹿児島県始良市蒲生）

始良市にある【蒲生和紙】工房は、鹿児島市内から、右手に桜島を眺めながら海岸線を通って別府川上流に北上、ほどなく畑や森林を左右に見渡す景色が広がった所にあります。
武家の副業として作られていたという蒲生の和紙。
16代目の小倉さんは、いろいろな資料を出して説明下さいました。
紙料原料はカジノキ。地元産業で和紙を使用する例がいくつか見られる。地元産業の菜種から作られる菜種油の濾し紙。お茶のふうろ紙、焼酎のラベルなどで、地元産業を支えるなど、関係性が築かれており需要と供給が成り立っているように思われます。



小倉正裕さん



国特別天然記念物日本一大きなクスノキを持つ 蒲生八幡神社や、
国登録有形文化財山田の凱旋門
など、周辺の観光を楽しみました。



和紙工房訪問



加賀二俣和紙訪問
2021年10月
石川県金沢市二俣町

二俣和紙 齊藤博さんの工房に伺いました。
これまで現地訪問した紙漉き工房は、どれも都会からはかなり離れた山里にありましたが、二俣和紙は金沢市内。都会にある紙漉きの里かと思いきや、市街を通り抜け、住宅地がまばらになり、細い道を通って辿り着いたのは期待を裏切らない和紙の里の風景でした。
江戸時代、二俣和紙は、加賀奉書と呼ばれ加賀藩の御用紙等として保護されてきました。齊藤さんの和紙作りは、原料にこだわり、楮と三桮と雁皮の基本材料、国産・輸入と、使い先の要望に合わせて配合整し作ります。（その配合は秘密です）写真の発色の美しい和紙は、変わり染雲紙。綺麗な色ですっかり虜になりましたが、なるほど加賀友禅で使われる直接染料で和紙を染めているのだそうです。
今ではおひとりで和紙を作られている齊藤さん。昭和時代「青年の集い」で活躍されていた事、紙漉きの師匠 坂本宗一郎氏へのご恩など、和紙に係る人達の懐かしい話を聞かせて下さいました。



変わり染雲紙



齊藤博さん



手漉琉球紙工房【蕉紙庵】訪問
2022年2月
沖縄県那覇市首里儀保町

重要無形技能保持者(人間国宝)
安倍栄四郎氏の「紙漉き七十年」に、明治時代に途絶えてしまった琉球紙再興に氏が尽力されたことが書いてある。
栄四郎氏に師事し芭蕉紙を復興なさったのが勝彦さん、勝さんを師として芭蕉紙を継承されているのが安慶名清さんです。
伺った時は、芭蕉布の人間国宝、大宜味村の平良敏子さんから糸芭蕉の繊維を受け取ってきた直後で、屋根の上、軒下とあらゆる場所に皮が干してありました。
糸芭蕉を、布と紙で使い分けしているそうです。芭蕉の皮は楮の白皮より薄くて幅広。日光が透過し、カーテンのようにゆらゆらとそよいでいる光景はとてもものごかでした。琉球三桮、雁皮などの原料を混ぜて、板干し、天日干しで仕上げます。



安慶名清さん



「ミス・ワールド・ジャパン2021日本伝統文化賞」 河内愛稀さんがPIARAS親善大使に就任



PIARASベアやイベントなどのさまざまな活動に参加。SNSも活用し、和紙のプロモーションをサポートしていただきます。



河内愛稀（かわち・あいき）
1994年1月21日生まれ
ミス・ワールド・ジャパン
2021日本伝統文化賞
フィリピンと日本のハーフとして
難民等定住外国人の学習支援を行っている。

河内愛稀さんからのメッセージ

PIARAS親善大使の河内愛稀です。
大使として就任させていただいてから今日まで、様々な和紙や職人の方に出会う機会がありました。伝統技術である手漉き和紙には、それぞれの地域で継承されてきた特徴があり、職人の方が費やした手間暇や想いの分だけ癒し、くつろぎを与えてくれる、そんな和紙の魅力を知れば知るほど、不思議と惹かれていきます。もっと沢山の和紙と文化に触れ、今後も皆さんにその素晴らしさをお伝えできたらと思っています。



花紙絵® (HANASHIE)



千の葉の芸術祭

2021年8月21日～9月12日

そごう千葉店（千葉県千葉市中央区）

写真家・美術作家 宇佐美雅浩さんの作品に花紙絵®で制作協力

写真家・美術作家の宇佐美雅浩氏の作品Manda-laシリーズ【宇佐美正夫千葉2021】が、千葉市初の大規模アートフェス『千の葉の芸術祭』の『CHIBAFOTO』で展示されました。この作品の被写体になっているさつき盆栽に『1000輪さつき』で花紙絵が制作協力いたしました。



1000輪さつき

使用和紙 石州勝地半紙(島根県江津市)、美濃和紙
制作者 PIARAS 花紙絵 講師
オニール陽子、斉藤里織、菅原幸代



2021年12月1日～25日

エリスマン邸（神奈川県横浜市中区）

【山手西洋館 世界のクリスマス2021】

主催 公益財団法人 横浜市緑の協会 エリスマン邸 チェコ共和国

コーディネーター team-K(梶田恵臣様、栗栖信子様、川上りか様) team-K.jp.net

の展示に協賛いたしました。

和紙花、ステンドグラス、こうそのツリー、ワークショップなどPIARASの手漉き和紙の作品制作対し、本美濃紙保存会(岐阜県美濃市)様のご協力を頂きました。

和紙のステンドグラス



和紙花

ポインセチア赤



和紙のステンドグラス 制作風景



屏風作家 品川なつさんよりアドバイスをいただき制作いたしました。

和紙花

ポインセチア白

こうそのツリー



楽譜入れ引き出し

■ 制作者 ■

■ 和紙花 ポインセチア 赤
花紙絵認定講師 川上則子、増本京子

■ 和紙花 ポインセチア 白
花紙絵特別認定講師 オニール陽子
花紙絵認定講師 菅原幸代、エルナンデス美紀

■ 和紙のステンドグラス
PIARAS会員 品川なつ(屏風作家・書家)、鈴木貴久美
花紙絵特別認定講師 斉藤里織

■ こうそのツリー
PIARAS会員 鈴木祐子(草月流師範)、柳田嘉子(草月流師範)



愛稀さんの

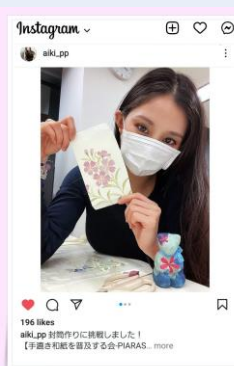
和紙に挑戦!



和紙花作り



封筒作り



「久保製紙」訪問

PIARASベアの紹介



Instagram
はこちら



2022年活動予定

- ❁ 6月23日、7月1日【三浦和紙を考える会】× 小川和紙コラボ
- ❁ 7月23日、25日、27日、29日 夏休みPIARASベアワークショップ
いたばしボランティアセンター（東京都板橋区板橋本町）
- ❁ 9月 手漉き和紙の里を訪ねる旅
手漉き琉球紙工房「蕉紙庵」（沖縄県那覇市儀保町）
- ❁ 10月～11月 第三回PIARASワールドベアコンテスト2022
- ❁ 11月 椿ツリーワークショップと手漉き和紙展示（予定）
赤塚植物園 森のアトリエ（講習室）（東京都板橋区赤塚）
- ❁ 11月 いたばし結まつり（東京都板橋区）

第二回【ワールドベアコンテスト2021】審査結果発表

第二回「ワールドベアコンテスト2021」は2021年11月6日にグランプリを発表いたしました。
昨年に引き続き、全31作、インスピレーションが刺激されるような、創作意欲あふれる作品が出揃いました！

グランプリ

いろいろ楮ベア 木村まどか様



**ワーク
ショップ賞**

イエローエンジェル 大嶽恵様



明るく可愛く元気よく 尾形有衣子様



PIARAS賞

和紙の里のくま 東平弥生様



**フォト
ジェニック賞**

森の活版印刷所 後藤明美様



**楮栽培支援
活動賞**

パンフルート・ベア・トリオ
日本ルーマニアパンフルート協会様



探検が大好きな探検くん
村椿愛莉様



**手漉き和紙
の匠賞**

夕焼けに染まったベア
瀬下加緒里様



彩りつつむ 森島花様



第二回PIARASワールドベアコンテスト2021 受賞作PV



動画は
こちら



動画制作：
フォトグラファー 山下由紀子さん

山下由紀子さんからのメッセージ

今回は色彩豊かで楽しい作品が多かったので「色と躍動感」を意識して作りました。
前半は作品として紹介し、後半はベア達が動き出すイメージです。地面の落ち葉が踊り出すのを合図に、陽射しの白、葉っぱの緑、紅葉の赤、イチヨウの黄色、花畑のなかでベア達が遊び出します。そして、空を見上げていた青いベアは大空へ羽ばたきます。寒空のほととの撮影でしたが、小さなベア達は、動き出しそうなほど生き生きしていました。



審査員の先生をして下さっているのは、昨年同様、PIARAS賛助会員様と手漉き和紙親善企業の皆様8名、今年は、PIARASと関係の深い芸術家の審査員3名様にも加わって頂きました。

宇佐美雅浩さん（写真家・芸術家）
ウスタミホさん（音楽家）
山下由紀子さん（写真家）

宇佐美雅浩さんからのメッセージ

参加者の作品は、小さな熊のモチーフが宇宙のように無限に広がるキャンパスのようだった。それぞれが、和紙の美しさと、繊細さを活かし、世界を築いていた。私はその中でも造形美と意図がうまくまとまっていた作品に加点した。次回もみなさんに、各自の宇宙を追求していただきたい。

第二回ワールドベアコンテスト2021の審査結果発表詳細、
第三回 ワールドベアコンテスト2022のご案内は、PIARASホームページにてご覧いただけます。